

福祉と住宅をつなぐ 地域での新たな一歩



写真：講師資料より

～罪を犯した高齢者、障害者、生きづらさを抱える人の
『住まい』と『暮らし』を多職種連携で支えるために～

10/
14(水)

時間：13：30～16：50（13：00受付開始）

場所：サイプレスガーデンホテル
名古屋市熱田区金山町一丁目9番8号
（金山駅南口から直進徒歩1分）

定員：70名（参加費無料）※定員に達し次第受付終了

対象：行政、居住支援法人、福祉関係者、
不動産関係団体、保護司、更生保護関係者、
その他居住支援・福祉に関心のある方等

【基調講演】

『福祉と住宅をつなぐ』

～住まいと生活支援を一体的(包括的)に考える～

【講師】

NPO法人 大牟田ライフサポートセンター 理事長

大牟田市居住支援協議会 事務局長

牧嶋 誠吾氏



1992年、民間企業を経て、大牟田市役所入庁（建築住宅課に配属）。一級建築士。
元大牟田市建築住宅課長。入庁後、市営住宅建替事業などの箱モノ整備に携わる。
その後自ら志願して保健福祉部局に異動し地域包括ケアシステムの構築に携わる。
その経験から住宅政策における福祉との連携の必要性を認識し、大牟田市居住
支援協議会を設立。現在は、居住支援の最前線で支援者として
活動するほか、2018年～国交省居住支援協議会伴走支援プロジェク
ト委員として全国各地の居住支援の推進に取り組んでいる。

著書に「福祉と住宅をつなぐ」（学芸出版社）
※第12回不動産協会賞受賞



お申込みはQRから
申込締切
10/9(金)



お問合せ

主催：愛知県地域生活定着支援センター
（NPO法人くらし応援ネットワーク）

☎ 052-253-6031 ✉ teichaku@kurashi-o-en.org

開催にあたって

高齢や障害があり、かつ身寄りのない刑務所等退所者などが、退所後すぐに円滑な社会復帰を果たすため、彼らが地域で自立した生活を送り、再犯や孤立を防ぐために最も重要な基盤が「安定した住まい」です。

長年、「福祉と住宅をつなぐ」先駆的な実践を行ってこられた元大牟田市職員であり、一級建築士でもあるNPO法人大牟田ライフサポートセンター理事長牧嶋誠吾氏を講師にお招きします。

「建築」と「福祉」、そして「地域住民（コミュニティ）」をどのようにつなぎ、孤立させない居住支援ネットワークを構築していくか。牧嶋氏の知見を学びつつ、後半のシンポジウムを通じて、当地域における具体的な多職種連携の在り方を探る機会といたします。

プログラム

13:30	開会挨拶・講師紹介
13:35	基調講演 『福祉と住宅をつなぐ』～住まいと生活支援を一体的(包括的)に考える～ 牧嶋 誠吾氏【NPO法人 大牟田ライフサポートセンター理事長 大牟田市居住支援協議会 事務局長】
15:05	休憩
15:15	シンポジウム 〈シンポジスト〉 杉本 浩起氏（名古屋保護観察所 次長） 増澤 翔太氏（岡崎市役所都市政策部住環境政策課住宅施策係 係長） 高木 崇 氏（愛知県地域生活定着支援センター 主任） 〈助言者〉 牧嶋 誠吾氏（NPO法人大牟田ライフサポートセンター 理事長） 〈コーディネーター〉 伊豆丸 剛史氏（NPO法人くらし応援ネットワーク「Liv LABO」LABO長） ※質疑応答を含む
16:50	閉会挨拶

地域生活定着支援センター （地域生活定着促進事業）とは？

本事業は、高齢又は障害により、福祉的な支援を必要とする犯罪をした者等に対し、各都道府県の設置する「地域生活定着支援センター」が、保護観察所、刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、留置施設、検察庁及び弁護士会、地域の福祉関係機関等と連携・協働しつつ、刑事上の手続き又は保護処分による身体の拘束中から釈放後まで一貫した相談支援を実施することにより、その社会復帰及び地域生活への定着を支援し、地域共生社会の実現を図るとともに、再犯防止対策に資することを目的とする。（厚生労働省ホームページより）